

# 英語の羅列は便利

社員の實力向上と事故防止が管理者の使命？

◇ 7

2011. 11. 15

JR東海労東二運分会

## 乗務員のみなさん

営業科長は所内誌11月号で、添乗指導の目的を『管理者の使命が所員の實力向上及び事故防止である以上、個々の社員がプロの乗務員として然るべき技量を有しているか確認しなくてはなりません。』と言っています。

さらに、『一方でこの添乗指導の取り組みを批判し、全く勘違いしたステータスを感じている人もいるようです。こういった人は「自分の知識・技量に責任を持つ」という東京第二運輸所で働く社員の基本的ポリシーを、全く理解できていないと思います。』と付け加えています。

## 乗務員のみなさん

管理者なら、言いたいことを抽象化しないでハッキリ表現するのが管理者の使命だと思いませんか。

もしかして「取り組みを批判」している人とは私たち東海労を指しているのでしょうか。確かに私たち東海労は「添乗」について問題あり、と言っています。問題にしているのは、東海労組合員に集中した感情むき出しの添乗とその後の報告の強要です。「指摘事項」を乗務員が報告することで、技量や知識の不足が解決すると思っているようですが間違いです。添乗と指摘が目的ではなく「所員の實力向上及び事故防止」が目的のはずです。

最も大切なのは「所員の實力向上及び事故防止」なのだから、車掌の車内業務を妨害し、列車監視やドア扱いにも支障をきたしかねない、感情むき出しの添乗は直ちにやめ、そして充実した訓練をなささい。「試験」や「自己啓発」によって技量や知識を習得させようなどと考えるのは管理者の使命に反した責任放棄です。職場が、ますます働きづらくなります。

ところで、私たち社員、乗務員の「ステータス」とは何でしょうか。科長は、社員、乗務員のステータスではなく、「批判」している人のステータスを言っていると思います。管理者として、熱心さは分かるような気がしますが抽象的すぎて意味が分かりません。「ポリシー」も同じです。英語の羅列は便利で、読む者をその気にさせますが、事実をあいまいにします。

注・ところで小川科長、10月号の あご紐 の件はどうなりましたか？新しい携帯品ですか？間違いの訂正はお早めにと忠告したのに未だ梨の礫。間違いを正せない管理者って哀れだ。



「熱心も過ぎれば恥に早変わり」 C D 頑爺